

巻 頭 言

～ インターネット時代の図書館の役割～

校長 谷口 研二

30年以上も昔、米国に出張した折のことです。「郵便の代わりに電子メールを使えば、すぐに相手から返事が来るよ」と言われた瞬間、情報通信技術の将来性を直感しました。その後、マイクロプロセッサの進歩と光ファイバー通信技術の普及に加え、画像が取り扱えるwwwが公開されてからインターネット時代の幕があがりました。今世紀になってGoogle MapやYoutubeなどが身近になり、誰もが膨大な情報に簡単にアクセスできる本格的なネット時代になりました。その利便性が高く評価される一方で、ネット情報の質が問題になっています。ネット上では誰もが情報発信でき、様々な意見が言える利点はあるものの、事実無根の情報や憶測による情報も散見されます。ただ、ネット上の情報すべてがガセネタではありません。正確な情報を提供している人も大勢います。これからは、利用者は、ネット情報の真偽を見分けることがとても大切になるでしょう。

ネット情報を検索すれば膨大な情報が瞬時に入手でき、素人でも専門家並の情報通になれます。稗田阿礼のような記憶力抜群の人でもネットの情報量にはかなわないように、インターネットの普及で、情報記憶の価値が失われはじめています。これからは情報の記憶より収集した情報の利活用がとても大切になります。産業革命で力仕事が激減したように、情報通信技術の進歩は人間の生き方や価値観を大きく変えることでしょう。今後は、入手したばらばらの情報から何を引き出すのか、何を創り出すのが重要になります。

図書館は、この一見ばらばらの情報を人類の知的資産に変える方法を教える場でもあります。これまで古今東西の賢人は過去の膨大な情報をもとに思想を作り上げてきました。学生の皆さんは、そんな賢人の遺した書籍をしっかりと読んでその思想を理解し、ばらばらの情報を人類の知恵にする方法（プロセス）を学んでください。その一つが図書館の副次的な役割として最近注目されているラーニングコモンズ（各種情報を共有して学生同士が議論できる場）です。その典型的な例が、幕末の頃、大阪にあった適塾です。当時、適塾には全国各地から若者が集まり、たった数冊の洋書から西洋の思想に触れ、互いに知恵や知識を出し合って切磋琢磨しながら考え方（思想）を作り上げる訓練をしていました。その適塾こそラーニングコモンズの良い例です。文部科学省もこのラーニングコモンズを全国の高等教育機関に展開する計画を立てており、本校にも近い将来、設置されることでしょう。この学生同士の議論の場を通して、インターネット上のばらばらの情報をまとめた思想に仕上げる若者が大勢出てくれることを期待しています。